

## 先駆者〜新たな土地を求めて

湘南講学会の会員の中に、寺坂（現大磯町寺坂）出身の鈴木房五郎という人物がいる。鈴木は文久元年（一八六一）に生まれ、思文館の支校である万田学校で、明治一〇年（一八七七）から補助教員を務め、教師として活躍した。思文館には当時、近藤市太郎をはじめとする、湘南社の活動に加わっていた者たちが教員として勤めていたため、鈴木が湘南講学会の会員になったのは自然の流れであったのだろう。湘南講学会で欧米の思想を学んだ鈴木は、明治一八年にアメリカへ留学し、さらに西洋の思想を学ぶ道を選んだ。

鈴木と同年に同じ寺坂に生まれた後藤潤（小早川勝蔵）もまた、湘南社の活動に直接ではないが、接点を持った一人である。後藤は役人の道を進み、明治一二年に山口左七郎が郡長を務めていた郡役所に勤務した。その後、県庁に勤め、鈴木が留学した年と同じ明治一八年に最初の官約移民としてハワイへ渡った。移住先のハワイ島ホノカアではサトウキビ農園で働いたが、その後、自らの店を開業し、移民たちのリーダー的存在となった。ハワイでの移民たちの労働環境は厳しく、後藤は農場主との交渉に奔走した。結果として、農場主たちから反感を買い、明治二二年に殺害された。享年二八歳であった。

一方の鈴木も留学先で病に罹り帰国、明治二六年に三三歳（数え年）で没した。鈴木と後藤は同年同郷のよしみで交流があり、現在の大磯町に所在する後藤の墓碑は、鈴木が選書している。鈴木と後藤、そして後藤と山口のつながりには、背景として湘南社の自由民権思想がうかがえる。かたちは違ったとしても、鈴木と後藤が海外へ新天地を求めた背景でもあったのだろう。

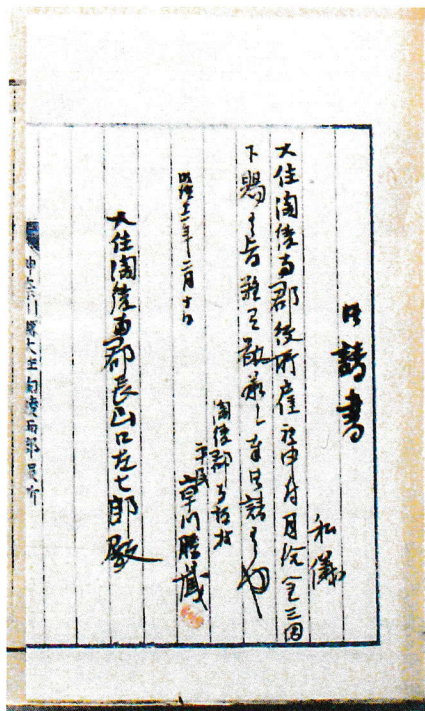
後藤のハワイでの行動は、後に現地の日系人たちによって再発見され、昭和六〇年（一九八五）には、官約移民渡航百周年を記念して追悼式典が開催された。記念碑の建立など、後藤の勇氣ある行動は、現在では顕彰の対象となっている。



後藤潤

Patsy Yuriko Iwasaki 氏提供

1861-1889



御請書（「各官員任免及賞誉書類」より）

明治12年（1879）雨岳文庫所蔵

小早川勝蔵（後藤潤）が任免を受けて、郡役所の雇員になることを受け入れた書類。